

平成30年度 武雄市立武内小学校 学校評価結果

1 学校教育目標	2 本年度の重点目標
『学校大すき・友だち大すき・ふるさと大すき 武内っ子』	①花まるタイムの工夫改善と定着 ②ICT教育(スマイル学習)の定着 ③新学習指導要領への対応 ④学校生活での規律・規範意識の向上 ⑤体育行事(旬間含む)の充実 ⑥家庭での基本的な生活習慣の徹底 ⑦青空教室(異学年活動)の充実 ⑧いじめ対応、人権教育の充実 ⑨特別支援教育の充実 ⑩開かれた学校づくり

達成度
A: ほぼ達成できた
B: 概ね達成できた
C: やや不十分である
D: 不十分である

重点目標を具体的に評価するための項目や指標を盛り込む

3 目標・評価							
①確かな学力:主体的に学ぶ子どもの育成							
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 (左記の理由)	具体的な改善策・向上策
教育活動	●学力の向上	①花まるタイムの指導方法の改善・定着(英語の導入)	・学習規律意識の向上を図るとともに、学年の発達段階やカリキュラムに応じた花まるタイムの指導方法の改善・定着を行う。	・年2回の学習のきまりチェックを行ったり、武内小スタンダード(授業準備、話の聞き方、返事の徹底)の定着を図ったりすることで、学習規律意識の向上を図る。 ・各学期末の花まるアンケートを取り、指導方法の再検討を行う。 ・学校評価の児童アンケートにおいて、花まるタイムで「よくできる・だいたいよくできる」と答える児童85%以上を目指す。	A	・4月当初に武内小スタンダードを明示したり、年2回の学習のきまりチェックを行ったりしたことで、児童の学習規律の意識を高めることができた。 ・児童アンケートにおいて、花まるタイムで「よくできる・だいたいよくできる」と答える児童が90%以上だった。これは、高学年の花まる英語や百人一首・論語・歴史カルタ旬間を設けている成果である。	・花まるタイムのより一層の活性化を目指し、学年における取り組み内容を見直していく。 ・学習の決まりチェックの項目の加除修正を児童の実態に応じて行う。 ・武内小スタンダードのより一層の定着を目指し、長期休み明けの全校集会の時に、全員で再確認する。
	○教育の質の向上に向けたICT利活用教育の実施	②ICT教育(スマイル学習)の定着	・授業におけるICTの効果的な利活用を明らかにするために、様々な教科での活用方法を共有するとともに、ICT利活用を通して協働的に問題を解決させ、教育の質を向上させる。	・ICT利活用能力を高めるために、ICT職員研修及びICTスキルタイムを年3回ずつ行う。 ・ICT活用強調週間を設定し、様々な教科においてのICT利活用を促すとともに、教職員間で情報共有を行う。	A	・保護者や児童のアンケートにおいてICT利活用教育の実施について「よくできている・大体できている」と90%以上が回答した。 ・ICT職員研修も年4回実施することができ、授業に活用している職員が多い。 ・ICTスキルタイムを年3回実施し、児童のタブレット操作やキーボードでの文字入力など技能を高めることができた。	・ICTスキルタイムの学年に応じた実践内容を系統立てて見直していく。 ・ICT職員研修をする中で、有効なICT利活用実践について、情報を共有する。
	○指導方法の開発・改善	③新学習指導要領への対応(道徳科とピースフルスクールプログラム、外国語活動)	・新学習指導要領に対応した道徳計画(ピースフルスクールプログラムを含む)と本校独自の花まる英語をカリキュラムに位置づけた外国語活動の年間計画を立て指導方法改善定着を図る。	・道徳の内容とピースフルスクールプログラムの内容のすり合わせをし、5月までに計画を作成する。 ・外国語活動の年間計画の中から花まる英語で行う内容を抽出し、スムーズに移行できるように随時改善していく。	B	・道徳の内容とピースフルスクールプログラムの内容のすり合わせ、ピースフルプログラムを行った。児童アンケートから高学年は、学んだことを普段の生活に生かしている割合が高いが、低学年は20%の児童が「できていない・あまりできていない」と答えていた。 ・外国語活動の実施は、花まる英語を設置したことで、授業時数に無理なく、スムーズに行うことができた。	・道徳の価値項目とピースフルのねらいが合致できる内容を精選し、実施していく。 ・ピースフルが「特別の教科道徳」の授業として成立するために、ピースフルのめあての最後に「～の心情を育む」といった内容を明記する。 ・道徳やピースフルの授業で学んだこと(フレーズ)を教室に掲示し、生活に生かせるようにする。
②健康な体:たくましい体づくりに励む子どもの育成							
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 (左記の理由)	具体的な改善策・向上策
教育活動	●健康・体づくり	④体育・保健行事(旬間含む)の充実	健康な体をつくるために、体育的活動と運動旬間等を関係づけて実施し、進んで外で運動することができた85%の児童が答えることができるようにする。	・健康な体づくりのために、なわとび・マラソン旬間などを年間を見通して実施する。 ・今年度新しく運動委員会の活動としてなわとび大会、スポーツサーキットなどを計画し、外で運動する機会を設定する。	A	○今年度新しくスポーツサーキット週間を設定して取り組むことができた。進んで参加する児童も多くいて体を動かすことに親む児童が増えた。しかし、それが継続してはいないので、日常的に体を動かすことに親しめるような工夫が必要である。 ○今年度はマラソン旬間となわとび旬間を行う時期を急遽変更したため、年間を見通しての実施ができなかった。 ○児童へのアンケートで、進んで外で運動することができたと答えた児童は91.3%で目標を達成することができた。	●次年度も1月の武内町教育講演会の時になわとび大会を行うかどうかで運動旬間の時期が変わってくる。どの時期に行うと適切かを職員間で検討する。 ●保護者アンケートの中に、運動旬間の取り組みについての質問があった。どの時期にどんな運動旬間を行っているかを発信していくことも必要である。 ●運動旬間を行うための設備や道具を整えていく。
			病気の予防と怪我の防止を徹底させる。心身ともに健康な体作りのために保健指導を充実させる。	・担任と養護教諭が学期に1回、TTで保健指導を行う。 ・健康委員会の活動として、手洗い・お茶うがいの呼びかけを行う。 ・集団下校時には、月に一度「保健のめあて」に関連した内容について保健指導を行う。	A	○保健だよりや掲示物、集団下校時に月のめあてにそった保健指導を行うことができた。また、健康委員会の児童による手洗いうがいの指導も11月に行うことができた。しかし学期に1回TTで保健指導を行うことができなかったのが課題である。	●今後も保健だよりや掲示物、集団下校時に月のめあてにそった保健目標を指導していく。年1回のTT指導では年間計画を立て掲示し、学級担任に呼びかけて一緒になって進めていきたい。
	○学校・家庭での基本的な生活習慣の	⑤学校生活での規律・規範意識の向上	元気な挨拶や礼儀正しい言葉づかい、正しい廊下歩行等の規律・規範意識を向上させ、学校生活5か条を守ることができたと90%の児童が答えることができるようにする。	・学校生活5か条の指導を全校朝会や集団下校時に行い、定着を図る。 ・元気な挨拶や礼儀正しい言葉づかい、正しい廊下歩行などの振り返りを月に一回行う。 ・学期に一回、学校生活5か条全体の振り返りを行い、守れていない部分の指導に活かす。	A	○学校生活5か条については、全校朝会や集団下校時の指導に合わせて毎月アンケートをして振り返らせたので、意識が定着している。 ○トイレのスリッパが乱れた時には、全校にがんばりシールを貼らせるようにして改善をした。 ○「進んであいさつをする」の意識が低下したときには、それぞれのクラスで話し合いをしてもらい意識が向上した。 ○日々の指導によって88%の児童が学校生活5か条を守ることができているのでさらなる定着を目指す。	●今後も月のめあてのふり返りや集会時の指導を継続していく。マナー化も感じられるのであいさつ週間や履物揃えなどの取り組みを検討していきたい。 ●集会の時にふり返りから5か条をよく守れているクラスや児童を称賛する場を設定していきたい。

	基本的生活習慣の定着	⑥家庭での基本的な生活習慣の徹底	早寝早起き朝ごはんや家庭での手伝いなどの習慣を身に付けさせ、家庭生活3か条を守ることができたと85%の児童が答えることができるようにする。	・家読の感想欄に家庭生活3か条のチェック欄を設け、保護者と児童が一緒に振り返ることができるようにする。 ・ノーテレビノーゲームの日は全校放送で呼びかけを行い、児童の意識を高める。 ・長期休業前には、「よいこのくらし」を配付して、家庭生活についても周知連携を図る。	B	○家庭生活3か条を守ることができたと答えた児童は、84%で保護者は、86%守れていると答えている。ほぼ、目標が達成できたと考える。家読の時に3か条について家庭でも意識してチェックしていただいたことで成果があったと考える。 ○朝ごはんを食べるや手伝いをする項目は良くできているが、早寝早起きやノーテレビノーゲームについては、あまり守れていないようなのでさらに呼びかけていく必要がある。	●引き続き、家読の感想のチェックに家庭でも一緒に取り組んでももらえるようにする。(生活だより)実施率ののびを伝えて児童の頑張りを認めてもらえるようにしたい。 ●県の食育月刊の取り組みを利用して早寝早起き朝ごはんの意識を強化したい。
--	------------	------------------	---	---	---	--	--

③美しい心:人の痛みが分かるどもの育成

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 (左記の理由)	具体的な改善策・向上策
教育活動	●心の育成	⑦青空教室(異学年活動)の充実	・異学年集団による縦割り班活動を充実させ、最後の振り返りで9割以上の児童が互いに協力して活動することができたと答えることができるようにする。	・異学年での「青空教室」を民間学習塾と協働してプログラムを考え、5月以降、年に5時間実施し、教科学習と関連づける。毎回の「青空教室」の終わりに、よく関わっていた児童を紹介し、賞賛する。 ・集会活動でも異学年交流を取り入れたり、異学年での「わんぱく活動」を3回、「クリーンタイム」を6回実施したりして、全教育活動に広げ、柔軟な人間関係を構築する。9割以上の児童が互いに協力して活動することができたと答えるようにする。 ・縦割り班活動の振り返りを行う際には、児童相互の認め合いの場を設定する。	A	○「青空教室」では、活動の終わりに、よく関わっていた児童を紹介し、賞賛する場を設けた。 ○平和集会や心ほかばか集会などで、異学年交流を取り入れることができ、柔軟な人間関係を構築しようとする意欲を高めることができた。学校評価アンケートでは、9割以上の児童が「助け合って活動することができた」と答えている。 ○縦割り班活動の振り返りを行う際には、グループの6年生を中心に活動の中でよかったことを伝える場づくりができた。	○集会活動だけでなく、「クリーンタイム」でも、異学年交流のよさを活かして、高学年が低学年に手本を示したり、教えたりすることができるように、高学年と低学年のペアを作るなどの工夫をする。 ○縦割り班活動の振り返りを行う際には、グループ内の「だれの」「どんなところが」よかったのか具体的に賞賛できるように支援する。
	●いじめの問題への対応	⑧いじめ対応、人権教育の充実	・教育相談連絡会を開催し、いじめ等の早期発見に努め、生活アンケートで「学校生活は楽しい」(学校が好き)と100%の児童が答えることができるようにする。	・毎週教育相談連絡会を開催し、いじめ等の早期発見に努め、学校全体で対応することができる。 ・児童には月1回程度、保護者には年に2回アンケートを実施し、いじめ等の早期発見に努め、個人面談等を取り入れ、素早く対応する。 ・教育相談旬間の後に、各学級の相談内容とその対応について共通理解をする場を設ける。	B	○学校評価児童アンケート(楽しい学校にするためのアンケート)で、「楽しく登校することができている」と答える子が100%ではなかった。四捨五入して、約90%の児童が楽しく登校することができている。 ○毎週教育相談連絡会を開催し、気になる子の共通理解を図って、全職員で対応することができた。また、保護者とも連絡を取り合い、対応することができた。 ○教育相談旬間では、児童と向き合い、効果的に活用することができた。また、教育相談旬間の後に、各学級の現状と対応方法について共通理解をする場を設けることができた。	○「楽しく登校することができている」と答える子が増えるように、学級の取り組みや全校での縦割り活動や集会などの取り組みを見直し、工夫していく必要がある。 ○月に1回程度実施する児童への生活アンケートを確実に行うために、アンケートを実施する期間を月末の最終週に設定する。
	○個に応じた教育	⑨特別支援教育の充実	・特別支援を含む、個に応じた細やかな指導を行う。 ・児童や保護者の特別支援学級への理解を深める。	・個別の支援計画を作り、年に3回教職員の個別支援に関する研修を実施する。そして、担任だけでなく、それぞれの立場(校長・教頭・級外・養護教諭・特別支援コーディネーター・教育相談担当・スクールカウンセラー・生活支援員など)をいかして全職員で児童の教育に当たる。 ・ひまわり学級について、児童には全校朝会などで年間2回紹介し、理解を深めるようにする。保護者には、4月と9月と3月に特別支援教育便りを発行し、支援体制を知らせたり、児童や保護者の困り感に沿った情報を提供したりして、特別支援教育についての啓蒙を行う。 ・毎週の教育相談連絡会の中で、特に状況の改善が見られない場合は、外部機関(言葉の教室、学びの教室、スクールカウンセラー、巡回相談など)との連携を視野に入れた話し合いの場を設ける。	B	○年に3回の教職員の個別支援に関する研修を実施することができた。 ○ひまわり学級について児童へのお知らせは、6月と運動会前の9月の2回することができ、理解を深めることにつながった。 ○保護者向けのお便りは4月の学級懇談会に合わせて発行することができたが、9月は発行できず、保護者への啓蒙が少なくなってしまった。 ○教育相談連絡会の中での外部機関(言葉の教室、学びの教室、スクールカウンセラー、巡回相談など)との連携を視野に入れた話し合いの場は、毎週の必要性はなかったが、外部機関と個別に相談をするなどして、連携を図り、状況の改善に向けて取り組むことができた。	○ひまわり学級について児童へのお知らせは、年度初め(4・5月中)に一度設定する。 ○保護者向けのお便りは、学級懇談会に合わせて発行し、担任からの説明ができるようにする。 ○教育相談連絡会の中での外部機関(言葉の教室、学びの教室、スクールカウンセラー、巡回相談など)との連携を視野に入れた話し合いの場は、毎週の必要性はないが、月に1度(月末)に確認の場をもつ。

④開かれた学校づくり

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 (左記の理由)	具体的な改善策
学校運営	●業務改善・教職員の働き方改革の推進	⑩業務の効率化及び分散化	・会議や事務の効率を図り、行事等の精選や分散を行うことで、教職員が児童と向き合う時間を昨年度より3割増やす。	子どもと向き合う時間を増やすために、課業日の会議や研修を週1回にまとめたり、教材研究や学級事務を行う時間を毎日30分程度確保したりする。	B	市内で同機種のタイムカードリーダーを設置したことにより、職員の出退勤の時刻と、超過勤務時間を月別に把握することができた。また、放課後の会議を水曜日にまとめたり、プレミアムフライデーを設定したりすることで、学級事務を効率的に行う習慣ができている。子どもたちと向き合う時間の確保については、学校公開や教育活動の実践における事務的な業務を簡略化する必要がある。	今後は、各行事や教育活動で継続するかどうかを検討したり、2学期制の利点を生かし放課後の時間を教材研究や学級事務を行えるようにしたりする。
	○開かれた学校づくり	⑪開かれた学校づくり	・学校運営協議会や地域学校協働本部連絡会を年3回開催し、それぞれの意見や評価をもとに、地域や育友会、学校が協働することで、双方向の連携を行う。	・学校長の経営方針や方策、教育カリキュラムに基づいた、地域学校協働人材バンクを活用し、その成果を年2回、学校だより等に掲載し、町内の全戸に配付する。	A	地域の方々による花まるタイムや学習ボランティア等、人材バンクを作り支援の内容に応じて準備や連絡をスムーズに行うことができた。また、地域への協力を各学年で考え、「武内町を元気にし隊」として実施することができた。地域と学校が協働して教育活動に取り組むことで、互いにWinWinの関係を築くことができた。	官民一体型学校づくり協議会と、学校運営協議会、地域学校協働本部会議など、さまざまな会議が行われているので、今後、組織を一本化したり会議を精選したりする。

4 本年度のまとめ ・ 次年度の取組
・児童の発達段階に応じたきめ細かな指導や支援によって、各部や校務分掌における成果が表れている。特に、学力の向上、ICT利活用の効果、外遊びや体力の向上、保健・給食・図書館だよりの創意工夫、トイレのスリッパ並べ、あいさつの励行、各集会での異学年交流など、前年度の踏襲ではなく、教職員の改善意欲や具体策の実行力による学校経営への参画や協働による成果だと考えられる。 ・児童の学力向上は徐々に成果をあげており、指導方法の工夫や個別指導、家庭学習の習慣づけを継続していく。その一方で、児童の自己肯定感や悩み事の相談、いじめの未然防止など、心の教育が課題である。 ・働き方改革において、放課後の時間の有効活用、学校公開の精選、行事の時期移動などに取り組み、教職員一人ひとりの意識は高まってきた。次年度は、学校目標の達成に向けて取組の厳選、授業づくりの時間の創出、学級会計事務の負担軽減を一層、進めていく。 ・次年度に向けて、7月のパナソニック教育財団研究発表会、時期未定の教育事務所訪問、官民一体型学校公開(保護者・地域の方を対象) の日程や内容を今年度中に検討しておく必要がある。特に、研究発表会については、公開授業だけでなく学級経営、児童の学習訓練、環境整備などチーム学校としての統一感が必要である。 ・本校の重点目標の1つである、地域との協働については、組織の統一、人材バンクの見直し、「武内町を笑顔にし隊」の年間計画など、今年度中に改善すべきである。各学年で無理なく地域への貢献ができ、児童が地域との関わりの中でたくましく育っていくためのコミュニティ・スクールをめざしていく。

●は共通評価項目、○は独自評価項目